

教育実習生指導の現状と課題

—小グループでの授業担当のその後—

保健体育科 川崎 繁次・野村いずみ・鈴木 清貴

本校体育科では平成15年度（2003）教育実習より小グループによる授業担当制を取り入れている。その詳細については本校『高校教育研究第56号』を参照されたい。金沢大学の学域・学類の再編のため、平成22年（2010）は金沢大学教育学部入学の最後の学年であるスポーツ科学課程21名の教育実習となる。平成15年の実習アンケートと本年度の実習アンケートを比較検討しながら、大人数での効果的な教育実習のあり方を考えたい。

キーワード：単元計画 小グループ 相互評価

1. はじめに

本校体育科では金沢大学教育学部より毎年約20人の教育実習生を受け入れている。昨今の教員採用試験の採用数の減少などを受けて、学生の就職先については、公務員や一般企業への就職が激増中である。これは全国的な傾向として続いており、教育実習においても、始めから教員を目指さない実習生も増加傾向にある。全国の大学附属高校においてもこれらの実習生に如何にして充実した「教育実習」を実施するかという事で毎年研究・協議がなされていることと思う。

本校では平成15年度から、単元計画作成を含め小グループでの授業担当制を実施している。単元計画を作成したグループが第1週および第2週をおもに担当して授業を行う。授業内容についてはそれぞれのオリジナリティーを発揮して指導にあたる。スポーツ科学課程の学生は4年生での教育実習が最初ということで、特に実習の始めにおいてグループで計画、実施、改善というスタイルが効果的であると考えている。授業の反省会にはその他の実習生も参加して意見交換を行っている。約20人という大所帯の中で、何となく実習が終わってしまった…という

事の無いように、小グループでの授業検討が効果的であると考えた。4週間実習においては初めの2週間で授業の流れを掴み、後半2週間でさらに授業担当者の個性を生かした授業展開になるように指導している。4週間での授業担当時数は約9～10時間で保健が1時間である。自分の担当時間だけでは教材研究の時間を考慮しても空き時間がかなりあるわけで、他の学生の授業参観や授業整理会への参加の姿勢が実習の成果に大きく影響を与える事は言うまでもない。

保健体育科の教育実習生数の推移

年度	H11	H12	H13	H14
人数	11	10	11	2
年度	H15	H16	H17	H18
人数	22	11	18	21
年度	H19	H20	H21	H22
人数	22	20	19	21

(H14年は制度移行年にあたり、過年度学生2名の
実習となった)

2. 実習事前アンケートについて

金沢大学教育学部スポーツ科学課程4年生

H15年度 22名 H22年度 21名

①大学入学の第一の理由

- ・運動・スポーツを専門的に学びたい
【H15年】 【H22年】
14人 (64%) 15人 (71%)
- ・運動・スポーツが好き、得意だから
7人 (32%) 5人 (24%)
- ・就職に有利になる
1人 0人
- ・教職につくことを考えた
1人 0人
- ・強く () に勧められた
0人 (監督) に1人

※7年前も現在も大学入学の理由としては、運動が好きだから専門的に学びたいという学生が主流であり、教職をふくめて就職を意識した学生は少ない。

②教育実習に最も期待していること

- ・体育実技の指導方法を学びたい
【H15年】 【H22年】
9人 (41%) 5人 (24%)
- ・教師の仕事や職務を知りたい
5人 (23%) 6人 (29%)
- ・自分自身が教員に向いているかどうか知りたい
4人 (18%) 4人 (19%)
- ・高校生と交流して考え方や感じ方を知りたい
3人 (14%) 4人 (19%)
- ・自分の学んできたことを教えたい
1人 1人
- ・その他
【H15年】
多くの人の前に立ち指導することでさまざまな

ことを学びたい

【H22年】

教師が授業を行う際の工夫など実際に経験しないと分からないことを学んでいきたい

※以前と意識の差はあまり見られず、現場での指導法や教師の仕事を知りたいという希望が上位を占めている。

③教育実習について、不安に思うことや困っていることはあるか (複数回答)

- ・指導案の書き方
【H15年】 【H22年】
16人 (73%) 18人 (86%)
- ・実技の示範
【H15年】
13人 (59%)
器械・柔道が不安 苦手種目の示範
わかりやすくできるか 自分ができない種目
良い例悪い例を示す事
【H22年】
13人 (62%)
ダンスの経験が無い 専門外の種目の場合上手く手本を示せるかどうか
マットでできない種目がある
腰痛のため身体がほとんど動かない
サッカーがあまり得意ではないので不安
自分の専門ではない種目をどうするか (6)
自分ができない場合どのように教えたらいのか
・教えた事をどうやってわかってもらえるか
【H15年】 【H22年】
12人 (55%) 11人 (52%)
・生徒とのコミュニケーション
【H15年】 【H22年】
11人 (50%) 7人 (33%)

・教材研究

【 H 1 5 年 】

5 人 (23%)

どの程度までどのような方法でやればいいのか
自分が経験していないスポーツを浅い知識だけ
で伝わるのか
何をどのような方法でやればよいかわからな
い

【 H 2 2 年 】

9 人 (43%)

生徒に興味を持たせるにはどうすればいいのか
生徒からの発言を引き出すにはどうしたらよ
いか
保健で生徒の興味関心の引ける授業ができるか
どこを重要な部分として扱うか
生徒が興味を示す教材を工夫できるか
自分の知識がまだまだ少ない
今の高校生が興味を持つことがわからない
どのレベルまで内容を盛り込むか
何をすればよいかわからない

・自分自身の生活

【 H 1 5 年 】

3 人 (14%)

試験が実習中にある
大学の研究室活動との時間配分
朝寝坊せずに皆勤できるか

【 H 2 2 年 】

5 人 (24%)

体調を崩さないかどうか
卒論や他にしなければならないこととの両立
社会人としての生活になっていないので不安
大会との両立ができるかどうか
バイトができず収入がなくなる
部活動に出る時間が減る

・通勤

【 H 1 5 年 】

3 人 (14%)

【 H 2 2 年 】

5 人 (24%)

・授業の持ち時間が多い

【 H 1 5 年 】

0 人

【 H 2 2 年 】

2 人 (10%)

※実習への不安や困っていることの上位は指導案
の書き方が共に最大の不安要素となっている。
教材研究についての項目を比較すると、平成22
年度の方がより不安に感じている学生が多い。
「何をすればよいかわからない」という回答に
代表されるように、受け身の姿勢の学生が増え
ているように感じられる。

実技の示範については同じような割合の学生
が不安をもっている。「専門種目以外をどうす
るか」ということについて、まず自分が練習し
て仲間からアドバイスをもらおうという姿勢が
次第に薄くなっているように感じられる。

自分自身の生活や通勤への不安についても22
年度の学生の方がより不安を抱えている。実習
期間中にある大会や部活動への心配といった内
容の心配をする学生も見られる。教育実習に対
する気持ちのあり方が、大学での授業の延長線
にあるようである。アルバイトと実習を天秤に
かけることに違和感を感じない学生の増加も近
年の実習から感じる。

④ 9月の実習開始までに準備したいこと

【 H 1 5 年 】

教材の理解と実技能力	20人
授業展開と授業の概要を考える	4人
保健授業の資料収集・知識理解	3人
心の準備	3人
生活のリズムを整える	1人

【 H 2 2 年 】

教材の理解と実技能力	12人
授業展開と授業の概要を考える	7人
保健授業の資料収集・知識理解	8人
心の準備	1人
生活のリズムを整える	1人
毎日新聞を読む	1人
現代の高校生の流行を知る	1人

※実習前に準備したいことがらについては、15年度22年度も体育や保健の授業についての教材研究がほとんどを占めている。ただし、体育分野における実技能力についての項目を比較すると15年度20人(91%)に対し22年度は12人(57%)である。実技の示範に不安を抱えている学生が22年度が若干多いにもかかわらず、それに対する準備をしようとする割合が低いという結果となった。

⑤理想の教師像について(自由記述)

【 H 1 5 年 】

- ・生徒とのコミュニケーションがしっかりとれていて、心のつながりを大事にする教師
- ・生徒から信頼、尊敬される教師
- ・厳しさと優しさを使い分け、本当の意味で生徒の成長を促すことのできる教師
- ・生徒が引きつけられる、自然と集中してしまう授業ができる教師
- ・生徒と一緒に楽しみながら授業をつくり、その楽しさを教えられる教師
- ・生徒が信念を作っていく上で、何か手伝いができる教師
- ・教師という仕事に誇りを持ち、楽しんでいる教師
- ・生徒に何かを考えさせられるまたは感じさせられる教師

【 H 2 2 年 】

- ・チャレンジャー
- ・特になし
- ・生徒との信頼関係が成立している教師
- ・生徒がわかる授業を行う教師
- ・生徒に信頼されて、生徒の良き相談相手となれる
- ・生徒一人一人と細やかなコミュニケーションがとれる教師
- ・生徒の二歩前を後ろ向きで歩く教師
- ・生徒一人一人のことを考え、個性をしっかりと伸ばし正しいことをしっかりと教えられる
- ・知識教養があり信頼される教師
- ・授業力のある教師
- ・生徒目線であり、かつ教師らしいこと
- ・怒る時は怒る、褒める時は褒める、メリハリのある教師
- ・自分から積極的に参加できない生徒に目が届く
- ・何事にも情熱を持って取り組める教師
- ・生徒に尊敬され人の考え方や生き方を良い方向へ導ける教師
- ・楽しいと思える授業ができる教師
- ・頑張れる人間、心の強い人間
- ・怒らずに原因と理由を論理的に話して、諭すことのできる教師
- ・勉強もできるし社会のあらゆる事柄に精通している人
- ・生徒に興味関心を持たせることができる教師
- ・フランクに接することのできる教師
- ・言動の一致、まず自分が動き、模範となれるよう努める教師

※理想の教師像については、生徒との信頼関係を築いて、生徒と共に成長できる教師をイメージした学生が多い。22年度のアンケートで、「特になし」という回答をした学生がいる。実習を受け入れる側としては寂しい限りである。

⑥現在、教師になりたいと思うか

【 H 1 5 年 】	【 H 2 2 年 】
・強く思う 3人 (14%)	7人 (33%)
・思う 4人 (18%)	6人 (29%)
・あまり思わない 14人 (64%)	1人 (5%)
・思わない 1人 (5%)	6人 (29%)
・わからない 0人	1人 (5%)

※平成15年度では「強く思う」「思う」者は約30%

「あまり思わない」「思わない」者は約70%であった。平成22年度では「強く思う」「思う」者は約60%「あまり思わない」「思わない」「わからない」者は約40%であった。ただし「あまり思わない」という項目について見てみると、平成15年度は64%、22年度は5%という数字である。はっきりと「思わない」と回答した学生は15年度が5%であり22年度が29%になっている。「あまり思わない」という回答をした学生の中に「少しは思う」という学生も含まれていることも考慮すれば、22年度実習においては「教師になりたい」学生と「なりたくない」学生にはっきりと別れていると言えそうである。

⑦附属高校（生徒・保健体育科）について知っていること、感じていること（自由記述）

【 H 1 5 年 】
・学力レベルが高い。頭が良さそう。勉強ができる。
・体育があまり得意でなさそう。体育が好きでない生徒が多そう。部活動の成績はあまりよくない。
・教育実習生に慣れている。
・まず頭で考えてから行動しそうなところ。
・体育は遊び、休憩の時間と思っている。

【 H 2 2 年 】

- ・とても頭が良い。優秀、問題児がいない。
- ・授業を進行しやすい。
- ・真面目、賢い。
- ・体育に関しては、あまり興味がない。
- ・体を動かすことがあまり好きではない。
- ・服装がバラバラ。
- ・自分のペースで学んでいる。
- ・運動ができる子とできない子に分かれている。
- ・生徒全体をまとめるのに苦労しそう。
- ・実習生慣れしている。
- ・スポーツに対する興味関心がどれだけあるのか気になる。
- ・勉強優先で体育はあまり積極的でない気がする。
- ・授業見学で体育を楽しんでいる様子が見れたので安心した。
- ・おとなしい。
- ・勉強以外の部分で何か欠けていることが多いと感じる。
- ・勉強が得意で運動が好き。
- ・賢く、他の学校とは少し違う雰囲気。

※生徒に関するイメージとしては現在も過去も「運動があまり得意ではなさそう」という印象が多い。

22年度では、実習事前参観で「体育を楽しんでいる」と感じたプラスの感想があった。

3. 実習事後アンケートについて

(平成22年については1名未提出のため20名)

① 授業の担当時数について

【 H 1 5 年 】	【 H 2 2 年 】
たいへん多い 0人	0人
少し多い 2人 (9%)	0人

ちょうどよい

1人(5%) 9人(45%)

【H15年】 【H22年】

やや少ない

19人(86%) 10人(50%)

とても少ない

0人 1人(5%)

※授業担当時数については、4週間で約10時間を担当する事になる。平成15年では86%がやや少ないと回答しているが、平成22年では50%がやや少ないと回答した。平均すれば週に2～3時間の担当時間であることを考えれば決して十分な時間とは言えない数である。このことから、平成22年においては、将来教師になりたいと考えている学生と、そうは思わない学生に分かれているのではないかと思われる。

② 担当した種目数

【H15年】 【H22年】

たいへん多い

2人(9%) 0人

少し多い

7人(32%) 3人(15%)

ちょうどよい

5人(23%) 12人(60%)

やや少ない

8人(36%) 5人(25%)

とても少ない

0人 0人

※平成22年に関しては、4週間で3～5種目を担当した。(保健を除く)60%がちょうどよいと回答している。実技のなかでは、ダンスを担当した学生に苦手意識を持った者が多かったので、授業準備に時間を要し苦労したのではないかと思われる。

③ グループでの授業づくりについて

A 授業前の打合せ

【H15年】

たいへんよかった 3人(14%)

だいたいよかった 16人(73%)

- ・違う方法や視点が見える
- ・助言で不安や緊張が和らぐ
- ・他の意見で考えの幅が広がる
- ・気付かないことをアドバイスしてもらった
- ・自分だけでは出ないアイデアも出てきた

あまりよくなかった 3人(14%)

よくなかった 0人

- ・案がほぼ同じで個性がみられない
- ・会が時間的に難しいこともあった

【H22年】

たいへんよかった 6人(30%)

だいたいよかった 11人(55%)

- ・協力して質の良い授業を目指した
- ・練習ができた
- ・前後の授業の流れを確認できた
- ・自分の気付かなかったことがわかる
- ・専門にしている人の意見を取り入れることができた

あまりよくなかった 3人(15%)

よくなかった 0人

- ・時間が合わず、他の人に負担をかけてしまった
- ・単元計画を作ったグループで協力すべき

※授業前の打合せについては平成15年も平成22年も、「たいへんよかった」「だいたいよかった」と回答した者が85%を超えている。授業づくりの参考となったと多くの者が記述している。「あまりよくなかった」と回答した者は、グループで時間を揃えることが難しかったと記述している。

B 授業観察

【 H 1 5 年 】

たいへんよかった 7人 (32%)

だいたいよかった 15人 (68%)

- ・自分の授業に活かせる
- ・生徒の反応を見られて参考になる
- ・自分の授業のイメージが作られた
- ・仲間に見られたり見ることで、安心感と緊張感が出る

あまりよくなかった 0人

よくなかった 0人

【 H 2 2 年 】

たいへんよかった 8人 (40%)

だいたいよかった 8人 (40%)

- ・自分の授業の参考になった
- ・自分に足りないものがわかった
- ・改善点を教え合えた
- ・様々なことが発見できた
- ・担当範囲を事前に確認できた (保健)

【 H 2 2 年 】

あまりよくなかった 4人 (20%)

よくなかった 0人

- ・暑くて集中力を持続できなかった
- ・しゃべってしまうことがあった (2人)
- ・どうしていいのかわからなかった

※平成15年では100%の学生が「たいへんよかった」「だいたいよかった」と回答している。しかし、平成22年においては「あまりよくなかった」と回答した者が20%いた。理由としては上記の理由をあげており、教育実習に対する意識の低さを表していると言わざるを得ない。われわれ指導教諭側も授業参観に対するマナーを含めた指導を今一度確認したい。

C 授業後の評価活動

【 H 1 5 年 】

たいへんよかった 11人 (50%)

だいたいよかった 8人 (35%)

- ・どんな視点で見ればよいかわかった
- ・気付かないことを指摘されるし、アドバイスを受けられる
- ・次の授業に活かすことができた
- ・自分は精一杯だが、ためになる意見が聞けてやる気が出た

あまりよくなかった 3人 (14%)

よくなかった 0人

【 H 2 2 年 】

たいへんよかった 7人 (35%)

だいたいよかった 12人 (60%)

- ・様々な視点を知れた
- ・自分の授業に活かすことができた
- ・内容の濃い活動ができた
- ・コメントをもらえたとし、出せた
- ・客観的に自分の授業が見られた

あまりよくなかった 1人 (5%)

よくなかった 0人

※授業後の評価活動に関しては、平成15年も平成22年も85%を超える者が「よかった」と回答している。ただし、授業観察記録用紙の内容に関してはあまり充実したコメントが書けなくなっている気がする。

④ グループによる実習のメリットとデメリット

【 H 1 5 年 】

メリット

- ・他の人の授業から修正したり、良いところを得られる

- ・協力することでいろいろなアイデアが出る
- ・負担が軽減される
- ・一人で行き詰っても教え合って意外とすんなりできた
- ・二人のアイデアが参考になる
- ・評価活動は自分の良し悪しが明確になり、失敗原因もわかる
- ・何となく心の支えにもなっていた気がする
- ・指導案の書き方や考え方を知ることができるし、深まる
- ・自分の専門以外のことを教え合える
- ・3人で良いところは真似したり悪いところは気付かされたりした
- ・一緒に練習したり、一人では心細い部分がカバーされた

デメリット

- ・オリジナリティーに欠けることもある
- ・検討会の時間が制限される
- ・他の人に任せて、自分で考えないこともある
- ・時間の都合がずれることもある
- ・個性が出しにくい
- ・頼りすぎることがある

【 H 2 2 年 】

メリット

- ・協力し合いながらできる
- ・自分にはないアイデアを出してくれる
- ・引き継ぎや練習内容の考案ができる
- ・行き詰った時に参考になった

デメリット

- ・内容が同じになりがち
- ・時間を合わせて話し合うのが大変
- ・人に任せてしまうことがある
- ・自立できない

- ・グループ以外の授業をあまり見に行かなくてもよい、という気持ちが出た

- ・やらなくてもよいと考える人が出てくる

※平成15年、平成22年ともにグループでの意見交換が有効であったというコメントが多かった。デメリットでは安易に他人に頼ってしまうということがある。全く同じ内容の指導案が提出されるということは無かったが、自分でアレンジした練習内容などが少なくなる傾向にある。これは、平成15年に関しても同じようなことが言える。

⑤ 実習前に期待していたことは、どのようにかなえられたか（期待していたこと）

【 H 1 5 年 】

【 H 2 2 年 】

- ・体育実技の指導方法を学びたい

9人 (41%)

5人 (24%)

- ・教師の仕事や職務を知りたい

5人 (23%)

6人 (29%)

- ・自分自身が教員に向いているかどうか知りたい

4人 (18%)

4人 (19%)

- ・高校生と交流して考え方や感じ方を知りたい

3人 (14%)

4人 (19%)

- ・自分の学んできたことを教えたい

1人

1人

- ・その他

【 H 1 5 年 】

多くの人の前に立ち指導することでさまざまなことを学びたい

【 H 2 2 年 】

教師が授業を行う際の工夫など実際に経験しないと分からないことを学んでいきたい

※平成15年では、「自分が教員に向いているかを知りたい」の項目を選んだ実習生は全員「今でもわからない」と答えたが、その他の項目を選択した実習生はほぼ期待を達成できたという記

述であった。平成22年では、思っていたよりも生徒と交流する時間が持てなかったと記述している者が複数いた。教員に向いているかどうかについては、生徒との交流から、教員を目指したいという者と、自分は向いていないと答える者がいた。生徒との交流については、担当授業の中だけでは思い描いているような交流は出来ない。放課後の清掃活動や部活動への参加が大きなポイントになるはずであるが、特に部活動への参加が少なくなっている気がする。

⑥ 教育実習で困ったことは何か

	【 H 1 5 年 】	【 H 2 2 年 】
・私的なことがら（通勤・病気・帰宅時間等）	7人 (32%)	5人 (25%)
・技術指導，専門的な知識	5人 (23%)	5人 (25%)
・生徒指導や躰け的なこと	4人 (18%)	2人 (10%)
・生徒とのコミュニケーション	3人 (14%)	2人 (10%)
・授業の盛り上げ方	2人 (9%)	2人 (10%)
・生徒の名前がわからない	1人 (5%)	なし
		4人 (20%)

※平成15年，平成22年ともに，通勤に対して不便を感じている者が多い。平成22年では4人の学生が「困った事は無い」と答えている。

⑦ これからの大学生活で，学びたいことは何か

	【 H 1 5 年 】 (複数記述あり)
・保健体育の学習指導に関わること	6人 (27%)
・教育学，体育学	7人 (32%)
・コミュニケーション，自己表現	4人 (18%)
・卒論，教員免許等に関わること	7人 (32%)

【 H 2 2 年 】

・保健体育の学習指導に関わること	4人 (20%)
・教育学，体育学	3人 (15%)
・コミュニケーション，自己表現	3人 (15%)
・教養を身につけたい	4人 (20%)
・旅行 その他	5人 (25%)
・なし	1人 (5%)

※平成15年では，卒論や研究室活動に関わることで32%あったが平成22年ではそれらをあげた者はいなかった。かわって，学生時代にしかできないことや旅行をあげた者が25%，学びたいことは無いと回答した者も1人いた。

⑧ 実習前と実習後で自分自身の考え方や行動で変わったことはあるか

【 H 1 5 年 】

・社会人としての自覚等	7人 (32%)
・教職への志望，指導すること	5人 (23%)
・表現，コミュニケーション	5人 (23%)
・やり終えた自信	2人 (9%)
・指導のポイントをつかんだ	2人 (9%)
・仲間の大切さ，教えることの喜び	1人 (5%)

【 H 2 2 年 】

・社会人としての自覚等	3人 (15%)
・教職への志望，指導すること	4人 (20%)
・表現，コミュニケーション	4人 (20%)
・指導のポイントをつかんだ	8人 (40%)
・なし	1人 (5%)

※平成15年，平成22年ともに授業や指導に関しての変化をあげた者が多い。平成22年で「変わったことはない」と回答した者が1名いた。

⑨ 教師になりたいと思うか

実習前

【 H 1 5 年 】 【 H 2 2 年 】

- ・つよく思う
3人 (14%) 7人 (33%)
- ・思う
4人 (18%) 6人 (29%)
- ・あまり思わない
14人 (64%) 1人 (5%)
- ・思わない
1人 (5%) 6人 (29%)
- ・わからない
0人 1人 (5%)

実習後

【 H 1 5 年 】 【 H 2 2 年 】

- ・つよく思う
3人 (14%) 4人 (20%)
- ・思う
13人 (59%) 5人 (25%)
- ・あまり思わない
6人 (27%) 5人 (25%)
- ・思わない
0人 3人 (15%)
- ・わからない
0人 3人 (15%)

※平成15年では「つよく思う」3人は実習前と変わらない。「思う」は13人で約60%となり、実習前の4人から大きく増えている。そのため、「あまり思わない」は6人となり、実習前に比べて8人減少している。「思わない」と答えた者は0となった。平成22年に関しては「強く思う」「思う」共に減少して13人から9人になった。その分「あまり思わない」が1人から5人に増加した。「あまり思わない」「思う」「強く思う」

では実習の前後で14人から14人と変化は無かった。「思わない」は6人から3人に減少したが、その分「わからない」が1人から3人に増加した。平成22年では実習前、実習後共に「思わない」「わからない」が約30%を占めている。平成15年では実習前に「あまり思わない」と回答した者が、実習終了後に「思う」に変わったが、平成22年では教師になりたいと思っていた者に気持の迷いが生じたようだ。教師になりたいと思わないで実習に臨んだ者は実習後もその気持ちに変化はなかったようだ。

4. 平成22年実習生の教員採用試験受験状況

受験した者 9人 (45%)
 受験しなかった者 11人 (55%)

就職が内定している者 11人 (55%)
 内定していない者 9人 (45%)

5. まとめ

3人のグループによる授業づくりという取り組みについては平成15年も22年も「よかった」という回答が多かった。反省点としては人に頼りすぎになる傾向があげられた。授業後の評価活動では授業観察用紙を終了後に教師が一度集めて目を通した後、授業担当者に渡した。ただし、内容に関しては前述したように、コメントが雑なものが多くなった。

平成15年と平成22年を比較した場合、「教員を目指さない」実習生と「教員を目指す」実習生の意識の差がより顕著になってきたと言える。「教員を目指す」実習生がより良い実習を行う為には、実習に参加した全員が高い志を持って実習に臨むことが求められる。その為には、授業参観に対する態度・姿勢を含めた指導をより充実していく必要性を感じた今年度の教育実習であった。

4. 教育実習について、不安に思うことや困っていることはありますか。【複数回答可】

① () 指導案の書き方

② () 教材研究 ⇒ 具体的にどのようなことですか

③ () 教えない事をどうやってわかってもらえるか

④ () 実技の示範 ⇒ 具体的にどのようなことですか

⑤ () 生徒とコミュニケーションがとれるか

⑥ () 授業の持ち時間が多い

⑦ () 自分自身の生活 ⇒ 具体的にどのようなことですか

⑧ () 通勤

⑨ () その他【

】

5. 9月の実習開始までに準備したいことは何ですか。

6. あなたの理想の教師像について述べて下さい。

7. 現在、教師になりたいと思いますか。

強く思う 思う あまり思わない 思わない わからない

8. 附属高校について知っている事、感じている事を書いて下さい。

① 生徒像

② 保健体育科 (施設・スタッフ等何でもいいです)

2010年 保健体育科教育実習 個人別授業担当表

	担当者	単元計画の担当	第1週 9/1-9/3	第2週 9/6-9/10	第3週 9/13-9/17	第4週 9/21-9/24	第5週 9/27-9/28	計	保健	種目
1		1年男サッカー	②1年男サッカー	①1A保健(2) ①1年男サッカー	②1年女バレー ②3年女テニス	①2年女器械	①3年男サッカー	10	1	4
2			②1年男サッカー	①1B保健(2) ①1年男サッカー	②1年女バレー ①3年女テニス	①2年女器械	②3年男サッカー	10	1	4
3			②1年男サッカー	②1年男サッカー	②1年女バレー ②3年女テニス	①2年女器械	①2B保健(4)	10	1	4
4		3年男サッカー	②3年男サッカー	②3年男サッカー	②2年男テニス ①1A保健(3)	①1年ダンス ①3年女テニス	①2年女器械	10	1	4
5			②3年男サッカー	②3年男サッカー	②2年男テニス	①1年ダンス ①3年女テニス	①2年女器械 ①1C保健(3)	10	1	4
6			①3年男サッカー	②3年男サッカー	②2年男テニス ①1C保健(2)	①1年ダンス ①2年男テニス	①2年女器械	9	1	4
7		2年男テニス	①2年男テニス	②2年男テニス ①3年男サッカー	②1年男サッカー ①3年女テニス	①1年女バレー ①3年男サッカー	①2C保健(4)	10	1	3
8			①2年男テニス	②2年男テニス	②1年男サッカー ①2A保健(2)	①1年女バレー ①3年男サッカー	①2年男テニス	9	1	3
9		3年女テニス	②3年女テニス	②3年女テニス	②1年男サッカー ①1年ダンス	①1年女バレー ①3年男サッカー	①2年男テニス	10	0	4
10			②3年女テニス	②2年女器械 ①3年女テニス	②3年男サッカー ①2B保健(2)	①1年男サッカー	①2年男テニス	10	1	3
11		2年女器械	①2年女器械	②2年女器械 ②3年女テニス	①1年ダンス ①3年男サッカー	①1年男サッカー ①1B保健(4)	①3年男サッカー	10	1	4
12			①2年女器械	②2年女器械 ②3年女テニス	①3年男サッカー	①1年男サッカー ①2A保健(3)	②3年女テニス	10	1	3
13		1年女バレー	②1年女バレー	②1年女バレー ①3年男サッカー	②2年女器械 ①3年男サッカー	①2B保健(3)	①1年ダンス	10	1	4
14			②1年女バレー	②1年女バレー ①3年男サッカー	②2年女器械 ①3年女テニス	①2C保健(3)	①1年ダンス	10	1	5
15		ダンス	①2年男テニス	①1年ダンス ①3年女テニス	②3年男サッカー	②2年男テニス ①3年男サッカー	②3年女テニス	10	0	3
16			①1年女バレー	①1年ダンス ①3年女テニス	①2C保健(2) ②2年女器械	②3年女テニス	①1年ダンス	9	1	4
17	2週間		①1年女バレー	①2C保健(1) ①1年ダンス	①3年女テニス			4	1	3
18	2週間	1年保健	①1A保健(1)	②1年男サッカー	①1年ダンス			4	1	2
19	2週間		①1B保健(1)	②1年女バレー	①3年男サッカー			4	1	2
20	2週間	2年保健	①3年女テニス	①2A保健(1) ①2年男テニス	①3年男サッカー			4	1	2
21	2週間		①2年女器械	①2B保健(1) ①2年男テニス	①3年女テニス			4	1	2
22		養護		①1C保健(1)				1	1	
23		養護				①1A保健(4)		1	1	
24		養護			1B保健(3)			1	1	

授業観察記録用紙

月 日 曜 限 クラス (男・女) 種目 ()

授業担当者 ()

記入者 () 場所 ()

アドバイス・気づいた事

時間	学習活動	教師の行動